

#06 第三者承継 (M&A)



ナショナル発条株式会社



Company Profile

- 〔所在地〕 岡山県倉敷市玉島乙島8256-43
- 〔従業員数〕 30人(2024年1月)
- 〔設立年月〕 1970年1月
- 〔業種〕 ベッド用スプリング製造販売
- 〔発信者〕 代表取締役 藤井 秀和

事業承継前の課題や解決すべき問題点

緑地帯活用にオリーブ園と植樹契約

当社は国内ベッドメーカーのおよそ7割と取引をしているスプリングユニットのトップメーカーです。日本にベッドが普及する以前の1967年に、祖父が囲碁仲間から作ってもらえないかと声をかけられ、バネを一個一個作る場所からスタートしました。早い時期から手伝っていた父・藤井鉄郎とともに設備導入による工業化や自動化に取り組んで大量生産体制を整え、1970年にはナショナル発条(有)を設立しました。バブル期頃から海外の輸入家具が入り始め、国内のベッドメーカーは規模が縮小し、需要のピークを迎えます。生き残りをかけて、顧客の欲しいものを1本から欲しいだけ提供する多品種小ロット生産に移行し、付加価値を高めたことで同業が次々廃業する中、最後の1社として残ることができました。



私は、東京で工場プラントの現場監督を経て25歳で入社し、2015年に36歳で父の後を継ぎました。同じ時期に、自動車の背もたれ用に薄いポケットコイルを作れないかとの相談を受け、ものづくり補助金を活用して設備を導入し、薄型コイルの生産体制を整えました。残念ながら自動車への導入は見送られたものの、薄さは新たな価値になることが分かり、2019年から「ベッドの快適性をどこでも使える」をコンセプトに薄型クッション「DotSheet」を商品化しました。事業承継をきっかけにBtoCに本格参入し、新たな市場開拓に挑んでいます。

今回事業承継した金辺オリーブ園とは、2009年に倉敷市玉島乙島に現本社兼工場を移転した際、条例により敷地内への緑地帯設置が必要で管理が大変だと感じていたところ、金辺一園長から「緑地帯にオリーブを植えさせてもらえないか」と声がかかり、土地(約1000m²)を貸す代わりに管理してもらうことを条件に植樹契約を結びました。海が近く、山が遠い畑では虫が付きにくく、農薬が不要で、実もしっかり付きます。順調に育てられていたのですが、2022年の年末に、金辺さんの奥さんから、「夫が病気を患ったため、事業を辞めたい」と突然連絡を受けたのです。

経緯やきっかけ

園長の想いに共感し事業承継決意

金辺さんがオリーブ園の管理に来た際などに、オリーブへの想いや、こんな商品を作り、売っていきたいなどの話を頻りに聞いていたため、「このまま廃業するのはもったいない」と思い、父とも相談し、事業承継することを決めました。



しかし、M&Aの経験がなかったため、岡山県事業承継・引継ぎ支援センターを紹介いただき、具体的にどのようなステップで事業承継に向けて準備していくかなど、一つ一つ課題を解決していき、2023年6月に事業承継しました。従業員はいなかったものの、一番の財産であるオリーブ



の木はもちろんのこと、金辺さんの想いを継ぐために屋号も引き継ぎ、事業部として「金辺オリーブ園」を開設しました。課題となったのは、金辺さんが、当社に先行して同じ乙島地域の事業所内でも緑地帯(約1000m²)でおおよそ3倍の収穫量のオリーブを育てており、それをどう引き継ぐかでした。幸い、商工会議所で接点があり、当社のことを認知してもらっていたため信用して任せてもらえて一安心しました。

実際の取組内容その過程相談先等

手探りでチャレンジし無事収穫

残念ながら、同年1月に金辺さんは亡くなってしまいました。金辺さんの娘さんに作業をしてもらうようお願いしたのですが、別の仕事をされていたため難しく、困っていたところ、4月に事務員として入社した三宅菜月さんがオリーブ事業に興味があると手を挙げてくれ、園長としてスタートすることになりました。金辺さんのご家族が週に1日3~4時間来てくれ、ノウハウを教わりながら手探りで一つ一つ前に進めていき、10月に無事収穫することができました。収穫したオリーブは、同業者の設備を借りるなどし、オリーブオイルや浅漬けオリーブに加工。ほかのフルーツと異なり、食べるまでの下準備に時間がかかって大変ですが、みんなで育てた分愛着がわき、一層おいしく感じました。



収穫してみて感じたのは、手摘みにこだわっていることもあり、想像以上に労働量を要することです。幸い、10月は本業が閑散期のため、従業員の力を集結して対応していく考えです。また、できた商品を販売するには、衛生面をクリアした自前の加工施設を持つ必要があり、今後は事業再構築補助金を活用するなどし、搾油機や調理設備などを備えた専用工場を設け、内製化を図る計画です。

今後の課題・展望

健康切り口にベッド事業との相乗効果図る

金辺さんこだわりのオイルやタブナード(オリーブの実をペーストにした薬味)を早期に商品化し、広めるのが目標です。葉っぱを煎じた紅茶などにもチャレンジし、快眠など健康にアプローチすることでベッドとオリーブ事業の相乗効果にもつなげていきたいと考えています。また、従業員に長く働いてもらうためにも、製造現場は危険や負担があるのでアグリ事業を働き場の受け皿にできるのもメリットだと感じています。



事業が軌道に乗れば、近隣の工場内にオリーブ園設置を提案し、規模を拡大していくことも検討しています。金辺さんの意志を継ぎ、玉島産のオリーブが地域の名産となるよう取り組みたいと思います。